

## 勿凝学問 302

インフレ・ターゲットよりも消費税の段階的引上げの方がマシという話だ

2010年4月20日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

昨晚、勿凝学問 301 で、消費税の段階的引上げの話を書いていたら、卒業生が心配げに連絡をくれた（笑）。

シンポジウムでは消費税を毎年1、2%上げる効果について興味深い意見もありました。

中小企業は、3%以上の引き上げならば便乗値上げで価格転嫁できるそうですが、1、2%の引き上げでは、メニューコストもあって辛いとのことでした。インフレ期待の醸成という点では、毎年の引き上げは魅力的に思えますが、弊害もあるらしく、難しいところですね。

どもな、レオ。

そう言う話は、大臣との会話の中でもでてきているよ。

あの時の話題は金融政策——俺は次のように言う。

金利と投資の逆相関は、経験的にはなかなか観察されないことで、企業の投資は期待収益率に依存するのであって、その「期待」収益率をあげることに日銀は政策手段をあんまりもっていない。下手なことをやると、世界全体に過剰流動性の害をまき散らすことになるし、過去、そういう弊害があつて、サブプライムローンの問題の一端も、日本の金融政策にあつたという説も有力視されている。

デフレ対策として期待物価上昇率を高めるためのインフレ・ターゲットなんかも言われていますけど、同じ目標を狙うのであれば、実行可能性も高く、リスクもインフレ・ターゲットよりは低い、消費税の段階的引上げの方がベターです。

これに続けて、勿凝学問 301 にある、次の言葉が来る。

「デフレ対策としても、来年度から1%もしくは2%ずつ、毎年引き上げていくべきと考えている」

その後、値札の取り替えの話題や、メニューコストのことなどを話し、そうした問題は分かった上で、それでも、大臣がデフレ宣言をするほどの異常事態なんだから、やった方が良くということだ。児玉源太郎が二〇三高地で二八センチ砲を専門家の意見と違った使い方をし、肉を切らせて骨を断つような成功を収めたような話しだな。

技術的にも政治的にも難しいことは分かっている。しかしながら、消費税は一気に必要な税率まで上げることは絶対に出来ず、どんなに頑張っても段階的に上げざるを得ないんだから、それをデフレ対策としても利用できるようにした方がベター。そういう認識に基づいて、レオに出したメールにあるように、「やるしかないんだから、財務官僚は弊害がすくなくなるようになんとかせいやという話だ」となる。レオが、3%でないと価格転嫁できないという研究結果を得、転嫁出来るかどうかは絶対条件として譲れませんと言うのなら、毎年、もしくは2年に一回3%ずつ引き上げることに俺は反対はしないさ。日本の消費税率は3%の引上げでは足りないんだから(笑)。そして最後に付け加えておけば、景気が悪いからと言って負担増を先送りする道を選択するとなれば、この国の公的債務のGDP比は発散してしまうから、その方面からこの国は終わるな(笑)。この国には究極の選択しか残されていないところまで追い詰められているんだから、問題のない選択肢なんてないだよな(T\_T)トホッ。

#### 追補

この文章を4月20日夜にアップした翌朝の『日経新聞』に、興味深い記事がふたつ。

一面「[基礎収支黒字か／GDPと比較 財政健全化2案 法案原案 増税にじむ](#)」

2案とも目標実現に向けた赤字の圧縮幅は30兆円程度ではほぼ同じ。経済成長による税収増や歳出削減だけでは達成は困難で、消費増税を含めた税制の抜本改革の必要性をにじませる案といえる。消費税率1%の税収を2兆5000億円とすると、現行の税率を15%に引き上げても足りない計算だ。

#### コメント

「増税にじむ」とか、「消費増税を含めた税制の抜本改革の必要性をにじませる案」ってのはなんだ？ にじんでいるんじゃ全然なくて、増税の必要性がそのまま表に出ているだけだろうが。「政府内では菅直人副総理・財務相が財政健全化法案の今国会提出に意欲を示している。しかし、与党内では参院選を前に財政再建を主眼にした同法案に慎重な意見も多い。今国会での扱いは流動的だ」…ほっ、ほう、私は愚かかもしれないという党首を掲げるこの愚かな与党は、相変わらず選挙の前に事実を国民の目から隠して、なんとか愚民選挙を演出しようとしているわけだ。選挙があろうがなかろうが、我々の目の前にある事実は変わらないんだけどね。

HPの4月14日に書いたことを、ここにアップしておきます。「にじむ」って、記者さんが好きな言葉のようで、いやはや。

- さて、先週末に花見も楽しんだので、次は [21世紀の西南戦争](#)の観戦でも。
  - [マニフェスト大幅修正に否定的...小沢幹事長](#) YOMIURI ONLINE
  - 「民主党公約見直し 戦略相ら前向き 小沢氏の反対発言受け」日経夕刊 4月13日
  - [「消費税上げ含む歳入改革」争点に解散も 仙谷戦略相 平野氏は牽制](#) 産経ニュース
- それと、この戦争の戦記を書く記者さん達は、この国がおかれた状況をちゃんと勉強して目の前で起こっている出来事を書かないとね。
  - [鳩山政権、増税路線に転換？背景に財務省の思惑にじむ](#) 産経ニュース
  - ここで、「背景に財務省の思惑にじむ」という、いかにも政治部チックな言葉は、いったい何のためにあるのかな？ この記者さんは、増税路線への転換をどう考えているのだろうか？ まさか、増税路線の是非を、「背景に財務省の思惑があるかどうか」で判断していたりしないよな。メディアのそうした政治部チックなノリが、この国を、これまでどれほどおかしくしてきたことか。記者さん達は、まずは、*The Economist* の今週号にある、*Japan's debt-ridden economy: Crisis in slow motion* でも読んでみてはどうか。ありがたいことに、3頁も割いて、世界中のマーケットに向けて、日本の財政危機を紹介してくれているよ(T\_T)トホッ。

## 二面「民主→日銀 強まる圧力 インフレ目標導入や雇用配慮」

民主党が財政難のなかでの経済成長の実現に向け、日銀の圧力をじわりと強め始めた。この春設立のデフレ脱却議員連盟が主導し、インフレ目標設定や金融政策の目標に「雇用の最大化」を加えるように提言。日銀法の改正も視野に入れる。

### コメント

負担増という選択肢を封印した人たちは、必然的に上げ潮派になり、結果、日銀批判を行うことになるわけだから、彼らデフレ脱却議連という上げ潮派民主党版は、自民党の上げ潮派と一緒にの方が、国民には分かりやすいだろうな。白川総裁は、衆院財務金融委員会に出席して、「金融政策だけで需要をつくり出すのには限界があると、デフレの主因である需要不足の解消には政府や民間も含めた努力が必要」と訴えたいらしい——同じ話を、この勿凝学問 302にも書いているわけである。